

オオオオ YONAGO かわら版

第150号
定価100円

編集 米子をおもしろくしよう会
発行 米子市書庫 317-3773 傘
事務局 米子市鶴岡3-77-33 傘
今井書店グループ本社内

米子高専の挑戦 リベラルアーツの模索

何年も前に、子どもたちの65パーセントは現在存在しない仕事に就くことになる、という予想がありました。高専に限らず、将来が現在の専門の境界を越えた道路が普通となり、早期における専門決定にリスクは高くなることで、よ。専門を一つ持ちながらの総合能力が光りだされます。また、文理系が推進されていきます。明確に文系、理系に分かれていた区分は解消に向かう流れです。これからの時代において、科学者、技術者にも文系の発想やひらめきが、文系にも数理データサイエンスの素養が必要だという表現で未来社会が語られています。

このような中で最近、キーワードにしているのが「リベラルアーツ」です。「リベラルアーツ」の訳しては「教養」が最も近い



何と言っても読書！（米子高専図書館）

のですが、高専や大学の理系系高等教育機関においては少し意識として「教養」とは使い分けられています。かつて大学では専門教育を優先するために、一般教養は直接役に立たない勉強として軽視された経緯があります。しかし、特別な何かの役に立つ道具は、得てしてそれ以外の目的には使いつづらったりしています。逆に、目的優先ではなく、熱中して取り組んだことが後から思いがけず役に立つことも、ままあることです。

か、ご自身がご覧になることはおそれくない」と承知おたしてうけれど、先生自身が嫁入り支度には選ばれたという腹股を召したお嬢様達の姿は、悲しみの中にも美しく映え、きつと先生の想像像だったに違いないと喜んで。

本年10月30日、享年94歳でこの世去なされた鳥取大学名誉教授・故田中敬一先生は、走査電子顕微鏡の世界的権威で、1985年の当時世界最高倍率の電子顕微鏡を観察用試料製法の開発で、世界をリードする多くの業績を残されました。特に有名なのが、世界で初



(田中SEM研究所の内部)

若人の心を捉え写し親を 顕頭世界九十九の春

めて「エクスワイズ」の立体像を撮影されたのでしょうか、そののニュースは瞬時に世界中を駆け巡り、平成9年には米子市民栄光賞を受賞されています。

電子顕微鏡を設置し、文字通り生涯に渡ってした。そしてその間、美しいミクロの世界を次々と明らかにされ、それらの写真を取った本も数々出版されています。また、先生はミクロの世界だけでなく何でも美しい物が好きで、イギリスの詩人ジョン・キーツの詩の一節「Beauty is truth, truth beauty (美は真、真の美)」をよく引用されました。そして、「どちらにしようかと迷ったときには美しい方を選ぶ」といって教わり育ちました」と娘さんが会葬簿札に書かれています。ところが、退職後26年間愛用されたその電子顕微鏡を、高齢になっても使わないからと米子市に

追悼 美しいものをこよなく愛された 田中敬一先生

高専されることになり、それを契機に2017年12月に「電子顕微鏡のまち・米子市」推進協力を有志が立ち上げ、一般市民から募った寄付で購入した新しい電子顕微鏡と共に、2018年3月末に米子市児童文化センターに設置させて頂きました。多くの子供達が電子顕微鏡観察に来てくれることを報告すると、先生は大層喜んで下さいました。

昭和28年、スクールライブラリーの重要性に気づいた人々々が100万人署名を制定、議員立法で学校図書館法を制定。それから年70周年を迎えます。その間も各校の片隅のカキのかわった図書室を、人々のいる学校図書館にするために、平成9年の司書館師の配置、平成24年の学校司書の法制化と粘り強い議員立法への歩みが続きました。

学校図書館の夢

永井伸和